北アルプス　立山　山スキー

2011 年 5 月 3 日～5 月 6 日

メンバー：志満、他１名

地形図：剱岳・十字峡・立山・黒部湖

関東圏からは長野側、扇沢からの入山がほとんどだけど、滞在型の大荷物とスキー板を持ち4度の乗り換えに黒部ダムサイドの長い歩き、そして高い交通費を考えると富山側からの方がお得感があったので富山から入山する事にした。

津久井を 20 時に出発し、立山には 2 時。さすがに距離があるだけ時間はかかる。仮眠をとり朝早い時間にケーブルの予約を取りに行く。
受付の方が言っていたが今年はやはり観光客が少ないそうだ。

ケーブルカーも高原バスも荷物を荷台に置くので乗っている間は荷物を持つことがなくてとても楽。これだけでも得した気分。

室堂につくと、扇沢からの始発が到着していなく閑散としていた。軽量化まったくなしの６日間の食料＆ビールはかなり肩に喰い込む。いざ！雷鳥沢テン場へ。私が始めて山スキーというものを経験したのはここ立山で、剣沢キャンプ場まで何度泣きが入ったことやら。歩きながらそんな事を思い出していた。

雷鳥沢テンバ場は、掃除が行き届いているトイレと流水がありとっても快適。利用料1泊￥500 で 2 泊以上￥1000 と良心的だ。ポカポカ陽気の中、お茶をしながら昼過ぎまでのんびり。あまりにも気持ち良いので、このまま一日日光浴で終わりそうになったが、重い腰をあげ一ノ越方面へ登り始める。30 分くらいして急に雲行きが怪しくなり、気温が一気に下がり風も出てきた。そのまま歩き続けるが、雪がぱらつき始め斜面の雪がしまりだしてきた。一ノ越は目前だったが今日は特に目的もないので引き返す事に。しかし時はすでに遅し、斜面は硬くなり板が曲がらない。こけると止まりそうもないので、斜滑降でテンバまで降りる事となった（残念）14 時半、テントに入り早々にビールで乾杯！今日は生牛 300g 持参で豪勢な牛皿定食となった。

＜立山ケーブル乗車口＞

5/4（水）
朝から快晴、風もない。昨夜の冷え込みで雪がガチガチになっていて緩むのを待ってのんびりと出発する。今日は一ノ越から御山谷へ滑り込み折り返すコース。一ノ越方面はかなり人が入っていた。このスキーヤーの中でオートルートに向かう人は居るのであろうか。オートルート・・・もう２年前になる。長いツアーの中でいろいろな物語がありたくさんの事を経験し学んだ。これから先何年山スキーをやるかわからないが、振り返った時に大きな思い出のツアーとなるには間違いないだろう。
一ノ越からは空が澄んでいて薬師岳への長い尾根が見えた。御山谷は南面なので程よく雪が緩んでいて快適そうだ。気持ちが高ぶる。この滑り込む時の気持ちって・・・・普段食べられない豪勢な食事を前に「いただきまぁ～す」と箸を手にした時と同じ気持ちではないかと思う。う～ん・・・いや・・・ここまで頑張って歩いてきた努力も考えればそれ以上？まぁ～余り考えると、今夜寝られなくなるのでやめておこう。

＜広～い御山谷＞

御山谷は広大な谷である。
幅広く優雅に滑る。滑走しているのは私達だけで、なおさら気持ちよい。このまま黒部湖へ降りて行きたい所だったが引き返しを考えるとそう標高を下げられない。2000M くらいで折り返す。それでも標高差 700M を滑走して満足である。天気が良ければ何をやっても楽しいもので登り返しもそれ程苦ではない。昨日とうって変わって一ノ越からの斜面の雪は適度に緩み滑りやすい。トラバースして山崎カールへ。カール下の斜面はこれまた広くて気持ちよい。テンバに戻り、先ずはビールを１本開けてから雷鳥沢ヒュッテの温泉へ向かった。酔っぱらい入浴だ。

5/5（木）
同じタイミングで立山に入っていた平本さんから、昨日は剱沢へ行ってきて今日は御山谷から黒部湖まで滑り込み帰路に向かうというメールがきた。結局、宿泊まりの平本パーティーには会えず仕舞いとなってしまった。
今日ものんびりと出発。テンバから正面に望む雷鳥坂を詰める。上部で急な段をいくつか超えるが板を背負うことなくシールで上がる。剣御前小舎へのトラバースは強風とアイスバーンで厳しいと聞いていたが、無風で雪も柔らかい。今日もベストコンディションだ。

＜別山乗越から見る大日岳＞

剣御前小舎まで大勢居たスキーヤーは、別山方面へ向かう人がほんの一部、ほとんどが雷鳥沢へ滑り込んでいく。昨日に引き続き大斜面貸し切り？かも。そんな中、相方は体調悪しで剱沢へ向かう気力もなく小屋で待っているから一人で行ってきてほしいと言う。ここまで来て気の毒だったけどお言葉に甘えてひとり、ハッ峰を従えた剱岳を正面に吸い込まれるように落ちていく。北面なのでほどほどに雪がしまっていて快適だ！剱沢を独占し優越感に浸る。こんなすばらしい景観にこの大斜面でなぜ誰も居ないのであろうか不思議である。武蔵谷と交わった 2300M あたりでぐっと斜度がゆるみ、さらにデブリもあったので行く気が失せここで引き返すことにした。シールをつけ、景観を楽しみながら登り切る。小屋中で待っていた相方と合流し、いざ雷鳥沢へ上部は斜度が強いが緩んでいるのでまったく問題ない。標高差 500M、一気に滑り降りる。最高！今日も大満足な一日だった。ビールで乾杯！！

＜剱岳を眺めながら剱沢へ滑走＞

5/6(金)
今日も無風快晴。GWに毎年この立山へ来ているというスキーヤーが「連日こんな天気が良いのは始めてだ」と言っていた。そんな中、たまたま今年来る事が出来た私達はラッキーと言えよう。

予定では土曜もしくは日曜日に下山予定だったけれど、翌日から天気が崩れる予報と相方の体調があまりよくないので本日下山する事にした。この天気でどこにも行かず下山は寂しいので、昼までにテンバに戻ってくる約束をし、ひとり大走谷経由真砂岳へ。テンバから見る大走谷は急斜面に見えたけれどそれほどでもなくシールで登った(稜線直下はちっと厳しかったが)途中一緒になったパーティーは真砂沢を下部まで滑り込み3時間かけて登り返して戻るという。私も本当は真砂沢を滑走したかった。今日泊まりであれば可能だったけれど仕方がない、また機会を作ってこよう。そう誓って真砂沢の眺望を後にする。GW もあと 3 日ともなればスキーヤーもかなり減り、辺りは閑散としている。今日も斜面を独占。さぁ～GW 最後の滑りだ。大日岳を正面に望みながら大走谷を一気に滑走する。うひょ～！！！！最高ぉ！やっぱりスキーはやめられまへん★

＜テン場から望む真砂岳＞

テントを撤収し、生活道具一式を背負い(2 日分の食料持ち帰り)室堂へ。途中みくりが池温泉に寄る。立山には何度も来ているけれど、この温泉に入ったのは初めてである。泉質、浴槽の広さ、そして設備。これは山小屋ではなくホテルです。そうそう、大日岳のあの非常に美しいラインが浴槽窓から望めるのです。ここ！お勧めです。

次回行きたいコース
①真砂沢
②雄山山頂から山崎カールへ
③別山山頂から剣沢
④浄土山から室堂
⑤別山沢

【一緒に行きたい人この指止まれ！！】